

鋼板を切断する最新の機械導入で
仕事の幅を広げる

事業内容

組織的な体制を築く

同社は住宅や工場の屋根、樋、外壁の外装工事を行う建築板金会社。新築からリフォームまで幅広く手がける。家内工業的な建築板金業が多いなか、同社は従業員15名と組織的な体制を築いている。幅6mの鋼板の曲げ加工ができるベンダーをはじめ保有設備も充実している。

住宅向けの屋根工事が売り上げの半分以上を占める。近年は新築のほかにリフォーム用の屋根や工場用の屋根、壁などの受注が増えている。元請けからの仕事を中心だが、顧客からの紹介やホームページ経由で受ける仕事も少なくない。

機動力の高さも強み

建築板金工の千屋浩一社長が平成18年に個人事業で創業。平成23年に法人化した。千屋社長は「人づてに紹介してもらいうちに仕事が広がった」と説明する。従業員は20代の若手が多く、機動力の高さも強みの1つだ。

補助事業

まっすぐ切断できない

屋根や外壁などで使う鋼板はコイル状で同社に搬入され、機械で切断している。これまでの機械はまっすぐ正確に切断できないという課題を抱えていた。不良率が5%あり、対策として熟練者が切断していたものの、不良品が出た場合は切断を繰り返さざるを得なかった。鋼板の搬入から検品・確認までの加工時間も120分を要し、生産効率が悪かった。

厚みのある鋼板に対応できず

また、企業のイメージアップを狙った工場の外装工事や、中古住宅をスタイリッシュな外観にするリフォーム工事が増えている。これらの工事では、より厚みのある屋根材や壁材を使うことが多い。これまでの機械では板厚0.4mmまでしか切断できず、顧客ニーズに対応できなかった。そこで鋼板を切断する最新の機械を導入し、同社が持つノウハウと加工技術を組み合わせることで、これらの課題の解決を図った。

“誠実”をモットーに

代表取締役 ちや 千屋 浩一

“誠実”をモットーに、“迅速”かつ“ていねい”を心がけて一つひとつの仕事に向き合ってきました。変化する環境、多様化するニーズに応え、お客様に喜んで頂けることを第一に社員一同、まい進する所存です。



鋼板を切断するシャーリング



鋼板の曲げ加工をするベンダー



鋼板を平らにするレベラー

具体的成果

不良率0%に

中小企業庁の「ものづくり補助金」を活用し、幅4mの鋼板を切断できる機械（シャーリング）を新たに導入した。同社が持つノウハウと加工技術を組み合わせることで生産性向上や競争力強化を図り、売上高と利益の拡大を見据えた体制が構築できた。

具体的には、切り口がきれいでまっすぐに切断でき、不良率を0%にした。加工時間も80分と従来より40分も短縮。生産性を向上し、受注の増加に対応できるようになった。

厚い屋根材や壁材も扱える

また顧客ニーズの板厚1.0mmを上回る板厚1.5mmまで切断できる。これまで対応できなかった、より厚みのある屋根材や壁材も扱える。従来は外注に出しており、納期が4〜5日かかっていたうえ、納期に間に合わない場合は直刃を使って手作業で切断せざるを得なかった。

加工時間短縮の内訳は切断が30分、後工程の曲げ加工で10分。精度の高い切断が曲げ加工の時間短縮にもつながった。千屋社長は「板を機械にのせて足でボタンを押すだけで、寸分の狂いもなく正確に切れる。仕事のレベルが上がった」と語る。

今後の戦略

リフォーム需要に対応

鋼板の切断能力が上がり、不良率の低下や加工時間の短縮を実現したことで、受注の増加が見込める。特に期待できるのは工場や中古住宅のリフォーム工事。ライフスタイルに合わせて住宅のリフォームを志向する人が増えている。受注の増加に対応できる体制を築いたことで、さらなる差別化ができ、市場の成長性を取り込める。千屋社長は「デザイナーが手がける住宅の仕事も増やしたい」と期待を込める。

また、近年の災害などを背景に瓦をやめて軽量の屋根材にするリフォーム工事も増えている。生産性向上を機に、こうした需要にもより積極的に対応する。

設備の有効活用も

一方、同社には新たに導入したシャーリングのほか、幅6mの鋼板の曲げ加工ができるベンダー、コイル状で搬入された鋼板を平らにするレベラーといった設備がある。これらを有効活用しようと、板金加工そのものを第2の事業の柱に育てる。取引のある企業に「あなたの会社の作業場に」と声をかけたところ、建築材料卸などから引き合いがあった。今後、加工の受注をさらに増やし、設備の稼働率アップを目指す。

取材を終えて

若手の育成にも力

平成29年8月に移転した本社にはベンダー、シャーリング、レベラーが整然と並ぶ。「これだけの機械を持っている建築板金会社はない」と千屋社長が強調する通り、他社との差別化に直結するラインナップだ。一方、創業当初2名だった従業員は毎年のように増え、組織的な体制を築ける規模に成長した。従業員は20代が多く、資格取得を奨励するなど育成にも力を入れている。ハードとソフトの両面から今後の飛躍が期待できそうだと感じた。

<http://chiyabankin.com/>